FD NEWSLETTER

CONTENTS

- 駒澤大学法科大学院におけるＦＤ活動の取組み
  法科大学院　　小松　良正
- 出席状況に応じた配布資料の工夫
  経営学部　　若山　大樹
- 2010 年度「学生による授業アンケート」の変更点について
- 平成 22 年度新規採用教員オリエンテーション
- 初年次教育学会入会のお知らせ
- ＦＤ推進委員会の今後の活動予定

駒澤大学法科大学院におけるＦＤ活動の取組み

法科大学院　教授
小松　良正

駒澤大学法科大学院では、現在、授業改善のための様々なＦＤ活動に積極的に取り組んでいる。このような活動のうち主なものとして、①ＦＤ委員会の開催、②学生ヒアリングの実施、③授業参観の実施、④授業評価アンケートの実施、及び⑤アンケートの結果に対する教員の改善提案及び小冊子の作成・配布、を紹介してみたい。

まず①のＦＤ委員会の開催であるが、これは法科大学院における各法分野ごとにＦＤ部会を設置し、定期的に授業方法及び授業内容の改善を目的として協議を行っている。また、これらの各ＦＤ部会を統括する委員会として、本学法科大学院専任教員及び特任教員からなるＦＤ小委員会が設置され、各ＦＤ部会の意見を取り纏めて検討を行っている。

次に、②の学生ヒアリングの実施であるが、これは全学年合同で、教員の授業方法・内容や、授業以外の学生生活上の事項について、教員が学生から直接意見や要望を聞いて改善を図るもので、学生から多くの意見や要望が出されている。

③の授業参観の実施は、教員が他の教員の授業を直接見学して問題点を指摘するもので、平成 17 年度からは、前期及び後期のすべての科目を対象に本学の教員が分担して授業参観を実施している。

④の授業評価アンケートの実施であるが、これは原則としてすべての開講科目について実施されるものであり、各セメスターの中間に実施される中間アンケートと、期末に実施される期末アンケートとがある。このうち期末アンケートは、ＴＫＣ（学習支援システム）を利用し、Web 上で回答する方法で実施している。

そして、最後に⑤アンケートの結果に対する教員の改善提案及び小冊子の作成・配布であるが、④の授業評価アンケートの結果に基づき、各教員は、（ア）アンケート項目別の評価・平均点、（イ）各学生の個別的なコメント、（ウ）今後の授業改善に向けた取組み、改善策、（エ）授業改善のための学生への要望についてコメントを作成した上で、これらのコメントを一冊の小冊子（『授業評価と授業改善』）にまとめ、学生全員に配布している。今後、さらに充実したＦＤ活動をめざして努力したい。

連載企画：よりよい教育のために
～授業改善のくふう～

「出席状況に応じた配布資料の工夫」

経営学部　准教授　　若山　大樹

常日頃、よりよい授業を行うために何が重要かを考えている。しかし、目の前の課題は多く、まだまだ試行錯誤の段階である。そこで、本稿では、授業に関する目の前の問題と授業改善のために行っている日頃の工夫について述べたい。

授業に関する目の前の問題には、試験・レポートの出来の悪さから、授業中の私語や携帯電話・内職といった授業態度や出席率の低さに至るまで様々あり、授業を改善したいと思うきっかけとなっている。これらの問題は、その時点での当該授業に対する学生からの反応に他ならないし、厳しく言えばそれまで取り組んできた結果ということになる。そして、出席率が低いと授業内容が理解できないので授業が面白くなく、それによって益々出席率や授業態度が悪化する。しかし、最終的に単位は欲しいので最後の試験（あるいはレポート）は取りあえず受験（提出）するという学生が少なからず存在する。ここで、もし仮に、毎回の授業において、全ての学生にとって興味深くて面白くわかりやすい授業で、出席して 90 分間、集中したくなるような授業に改善できれば、試験やレポート、授業態度、出席率の問題は解決するはずである。しかしながら、授業改善はそれほど容易なことではなく、多くの教員にとっての共通の悩みであるため、数多くの大学でＦＤ活動が盛んに行われているのである。

効果的な方法を模索しつつも当面の出席率改善のために実践していることは、出席が成績に結びつくことを初回から宣言して出席管理を厳しくすると同時に、連続して出席してもらうように前回の学習範囲の小テストを出席がわりとして頻繁に実施する方法である。その方法は昨年より試行して二年目になるが、毎回、めだった空席もほとんどなく、見かけの上で成果を上げているように見える。しかし、履修者名簿が出来上がるころに気がつくことは、出席している学生の総人数はほとんど変わらないが、メンバーが異なることである。他の授業同様、授業の初回は年間あるいは半期分の講義計画を説明し単位修得に至る条件を提示しており、授業の全体像を把握するために最も出席してほしい回であるが、実態はと言えば、初回に様子見で来た学生は結構な割合で履修をとりやめているのである。そして、第二週目に初めて出席した学生が出席者全体の三分の一を占め、第三週目にも四分の一以上が初めて出席、その後、第五週になっても初めて出席した学生は後を絶たず、第八週目で漸く今期二回目の出席という学生も少なからず存在するのが現実である。その講義科目は、３・４年次を対象としたものであり、１・２年次対象の授業よりも私語は少なく、授業態度の真面目な学生が多いものの、欠席理由が就職活動や部活動の場合を除けば、欠席理由の大半は不明であり、今のところ問題の所在や解決策ははっきりせず、このような学生の出席傾向に応じた授業改善には至っていない。

以上のような実態（学生の出席傾向）を受けて、以下のような取り組みを行っている。授業はパワーポイントを使用しているが、配布資料は、①講義レジュメを約二回分ずつまとめて配布し、講義レジュメの最初には②半期全予定を記載し、③その日のトピックが全体のどこに位置付けられるかを明記し、④前週や次週のトピックとの前後関係を示し、⑤今までの課題や小テストの実施状況（締切等）を示し、本題に入るようにしている。さらに、配布資料の最後には、興味をもって詳しく調べたいと思う学生が活用できるように、⑥関連文献のリストを示している。授業にパワーポイントを使用するメリットは、板書に比べて３倍以上の分量を効率よく講義できることであるが、デメリットは分量が多くて消化不良になりがちなことである。しかし、板書すべき重要な部分は、配布資料のスライドに穴埋め・記入欄を設けるなど、試行錯誤の段階ではあるが少しずつ改良を重ねている。以上の取り組みは、授業開始数週間後になって初めて出席した学生や欠席の多い学生に対しても、現在の授業を理解するためにはどのような前知識が欠けているかをわからせ、欠席していた部分を遡って学習するための機会を与えることになると考えている。

本稿では、日頃感じている授業の問題について述べ、出席管理を厳しくする方法で見えてきた問題を示し、授業改善の取り組みとしての配布資料の工夫について述べた。しかし、その他の重要な問題も数多くあり、例えば、教場の座席数と履修登録者数の問題として、本年度の授業の中には履修登録者数が教場座席数の１．５倍の授業があるが、これは履修登録者の約７割の出席で教場は満杯になる計算である。座る適当な場所がないというだけで教場に入らず帰ってしまう学生にも問題があるのかもしれないが、出席の厳格化と教場施設（座席数）の実態との矛盾は、出席の厳格化を躊躇せざるを得ず、現状で立ち見が出るほどでなくても、放置せず、同時並行的に改善したい今後の課題である。

2010 年度「学生による授業アンケート」の変更点について

平成 16 年度より実施している「学生による授業アンケート」について、ＦＤ推進委員会小委員会に設置された授業アンケートに関するワーキング・グループを中心に、授業アンケートの見直しを行いました。平成 21 年度第 4 回ＦＤ推進委員会において了承された授業アンケートの見直しに伴う変更点等を紹介します。

【見直しの目的】

１．授業アンケートの見直しについて

平成 16 年度から実施している授業アンケートの目的は、「学生の授業に対する関心・理解を知り、授業の内容・方法などの改善をはかるための資料とする」と定義されている。

しかし、学生の学力や学習目的の多様化が拡大してきている現在、学生の実像を把握することを出発点に、問題点等を全学で共通認識して、教育改善に取り組むことが重要となってきている。他大学でも同様の動きがあるが、過年度の取組を検証し、アンケートがどれほど実際の授業の改善に役立っているかについて見直す時期にきている。

個々の授業の改善にとどまらず、大学全体の教育の質の向上、本学の教育目標を達成するための手段の一つとして授業アンケートを位置づけ、実施するために、授業アンケートの目的を、「授業の内容・方法などの改善をはかるための資料」から「学生の授業に対する取り組みなどを把握し、大学全体の教育の質の向上をはかるための資料」と位置づける。

なお、平成 22 年度は、授業アンケートの目的、方法、調査内容などの在り方の再検討を開始し、平成 23 年度実施を目途に成案を得る。上記の問題意識にたって、学生の授業への取り組み姿勢を把握する観点を入れた新たな質問項目による授業アンケートを試行的に実施する。

２．平成 22 年度「学生による授業アンケート」の質問用紙の変更について

（1）授業アンケートの目的

質問用紙に記載している授業アンケートの目的については、「このアンケートは、みなさんの授業に対する取り組みなどを把握し、大学全体の教育の質の向上をはかるための大切な資料となります。」とする。

（2）質問項目

学生の実像を把握するためのデータを収集するために、学生の授業に対する姿勢や取り組みを問う質問項目を増やす。また、授業の履修目的・授業で受けた知的刺激等の具体的な回答を自由記述で得られるように、自由記述欄を増やす。

（3）無記名式と記名式の併用

授業改善に対する学生の誠実、真剣な意見・要望を集約できるようにするため、これまでの無記名式から、学生が記名式か無記名式かを選択できるように変更する。なお、学生が記名式を選択した場合、担当教員には学生の記名が分からないように集計する。また、記名式と無記名式を選択した場合の全体的な傾向を比較して、今後の検討材料とする。

（4）入試形態のマーク欄の追加

入試形態と学生の授業への取り組み（出席状況、予習・復習時間など）との関連を把握するために入学試験タイプのマーク欄を追加する。（任意の回答とする。）

（5）回答方式

「どちらとも言えない」・「ふつう」にあたる「3」を含まない 4 段階評価にする。また、休講に関する質問や授業の開始時刻・終了時刻に関する質問については、２択（はい・いいえ）で回答する形式とする。

（6）科目分類の廃止

講義科目、実験・実習科目、語学科目、保健体育実技科目といった科目分類を廃止し、全ての科目に対応した質問項目とする。

３．平成 22 年度の授業アンケートの実施概要について

（１）　対象科目

全科目を対象とする。ただし、集中講義科目、演習科目、受講生が 20 名未満の科目は除く。

（２）　実施期間

後期実施期間（11 月）の対象科目についても、希望があれば前期実施期間（6 月）に実施することができる。

（３）　その他の事項

①　学生の回収・厳封シールのサインを廃止して、アンケート用紙の回収を簡素化する。

②　集計結果の具体的なデータの提示

これまでの授業アンケートの課題として、次の２点が挙げられる。1) 学生の受講姿勢の違いによって評価がことなること、2) 学生の授業に臨む姿勢や意識は様々であり、全てを平均値で判断することはできないこと。

これらの問題に対応するためクロス集計を行い、学生の授業への取り組みに関する質問項目（出席状況、熱心さ、予・復習など）から、学生を階層化し（熱心層と不熱心層）、それぞれの特性を提示する。

2010 年度「学生による授業アンケート」（後期）の実施のお知らせ

実施期間：

平成 22 年 11 月 8 日（月）～
平成 22 年 11 月 13 日（土）

対象科目：全科目対象

（集中講義科目、演習科目、受講生が 20 名未満の科目は除く。）

※対象科目のお知らせは、後期に通知します。

2010 年度学生による授業アンケート（質問項目）

Q1　時間どおりに出席した割合はどのくらいですか。

4：100～80%　3：79～60%　2：59～40%　1：40%未満

Q2　授業に熱心に取り組みましたか。

4：そう思う　3：ややそう思う　2：あまりそう思わない　1：そう思わない

Q3　この授業の予習・復習にあてた時間は、1 週間に何時間くらいでしたか。

4：3 時間以上　3：2 時間以上 3 時間未満　2：1 時間以上 2 時間未満　1：1 時間未満

Q4　教科書・資料・教材・器具・用具等は効果的に使われていましたか。

4：そう思う　3：ややそう思う　2：あまりそう思わない　1：そう思わない

Q5　授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。

2：はい　1：いいえ

Q6　休講は少なく、通常通り授業は実施されましたか。

2：はい　1：いいえ

Q7～Q12　担当教員による個別質問

（Q13～Q17 は自由記述欄）

Q13　どのような理由でこの授業を履修しましたか。

Q14　この授業で受けた知的刺激に対する満足度はどうでしたか。

Q15　この授業の良かった点を具体的に記入してください。

Q16　この授業の改善してほしい点を具体的に記入してください。

Q17　担当教員による個別質問

平成 22 年度新規採用教員オリエンテーション

昨年度に引き続き、4 月 1 日に新規採用教員を対象にしたオリエンテーションを開催しました。

今年度からは新規採用の専任教員も対象とし、当日は、合計 58 名の先生方にご出席いただきました。

今年度から二部構成とし、石井清純学長からは、冊子『駒澤大学の沿革と建学の理念』の内容をもとに本学の建学の理念について、齊藤正副学長からは本学の教育方針について、また、ＦＤ推進委員会小委員会の中濟光昭委員長（経済学部准教授）と山縣毅副委員長（総合教育研究部教授）からはＦＤ活動に関することを説明いただきました。

事務部局からは、図書館、総合情報センター、教務部が授業運営等に関する説明等を行い、第二部では、専任教員を対象にした研究費等に関する説明を行いました。

来年度の実施に向け、より良いオリエンテーションとなるように改善を検討したいと思います。

ご意見、ご提案等ありましたら、事務局までお申し出ください。

石井清純学長

『駒澤大学の沿革と建学の理念』

第１部　教育方針および授業運営について

第２部　専任教員を対象にした研究費等に関する説明

初年次教育学会入会のお知らせ

ＦＤ推進委員会では、2009 年度より初年次教育に関する取組を検討しています。

本学は、2010年度より、機関会員として、初年次教育学会に入会しました。初年次教育学会は、初年次教育に関する研究と実践の有機的発展とその成果の普及による大学教育改善への貢献及び会員相互の研究交流の促進を目的としています。

初年次教育学会第 3 回大会が、9 月 11 日（土）～12 日（日）の期間に高千穂大学にて開催されます。機関会員は、5 名まで参加できますので、参加を希望される専任教員は、事務局にお申し出ください。

初年次教育学会第 3 回大会

1)　開催日
　　平成 22 年 9 月 11 日（土）～12 日（日）
2)　会　場
　　高千穂大学
　　〒168-8508　東京都杉並区大宮 2-19-1

ＦＤ推進委員会の今後の活動予定

○　平成 22 年度第 3 回ＦＤ推進委員会小委員会

平成 22 年 6 月 29 日（火）

※　ＦＤ活動についてご意見がありましたら、各学部等の小委員会委員までお申し出ください。

編集後記

本号のＦＤ NEWSLETTER では、「学生による授業アンケート」の変更点について、その目的と内容を掲載しております。今回より学生の主体的な取り組みを把握することで、より具体的なアンケート結果が得られるものと期待しております。

巻頭言では、小松良正先生より法科大学院におけるＦＤ活動についての積極的な取り組みについてご紹介いただきました。学生ヒアリングや冊子の作成をはじめとした先進的な手法は、学部のＦＤ活動の推進にあたっても大いに参考となります。

そして本号から授業改善の工夫に関する連載企画を開始することになり、若山先生より日頃の取り組みについての論考をお寄せいただきました。出席のとり方や適切な資料配布のあり方といった問題点につきましては、今後重視すべき授業改善のポイントとなるでしょう。今後も先生方のノウハウや工夫、および他大学での活動などを掲載する予定となっておりますので、ＦＤハンドブックと併せまして、ＦＤ NEWSLETTER につきましてもご活用いただければ幸いです。

（田丸　大・中川　淳平）

【タイトル横の写真は、法科大学院】

ＦＤ NEWSLETTER Jun. 2010 第 23 号

発行日：2010 年 6 月 30 日
発行者：駒澤大学ＦＤ推進委員会
〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1
TEL 03-3418-9125　Fax 03-3418-9114
（事務局：教務部）